

# 駅前に賑わいを！ブンカの交流館 続々開講

10月1日、ブンカの交流館がついに開講しました。松阪駅前通り商店街振興組合の協力のもと、県の補助事業として、駅前商店街ベルタウン2階の空き店舗を利用したこの事業は、「まちづくり型カルチャースクール」という、今までにない位置づけの文化教室です。6月より講師候補を募集したところ、講座の応募総数は137件にもぼり、抽選により45講座が決定しました。講師への説明会などを経て、9月から折込みチラシやインターネットを通じて受講生を募集。10月15日現在で200人を超える受講生が集まり、現在も多くの問い合わせが寄せられています。この事業を継続する期間中、講座の開講日ごとに、多くの受講生が商店街を訪れることとなります。これから街が賑わう光景が想像できますよね。会場には、駅前商店街との連携により割引チケットや、PRチラシなども設置されています。また、各講座内だけに留まらず、講座の枠を越えた交流の場となるような様々な企画も検討中です。これを期に新たな文化サークルなどが生まれる可能性もあり、祭りやまちづくり事業への出店や参画などの二次的効果も期待できそうです。講師の募集段階から予想を遥かに越えた反響があることから、こうした交流の場のニーズの高さを感じました。空き店舗率の上昇は、中心市街地が抱える大きな課題です。賑わいづくりへの効果的な手法を模索する中、カルチャースクールとまちづくりを繋ぎ合わせたこの取り組みは、地域課題解決に向けた、コミュニティビジネスの新しい形となるのではないのでしょうか。



## 講座の魅力伝えるPR&体験イベント開催

10月14日、講座の魅力伝えるため、ブンカの交流館会場内で「講座PR&体験イベント」が開催されました。イベントは「3つのゾーン」を見て、聞いて、体験しよう」をキーワードに、ステージゾーン、展示ゾーン、体験ゾーンで構成。それぞれが得意とする方法でPRし、講師の手柄も伝わったようです。ステージゾーンでは、実演あり、パフォーマンスありと、アピール方法も様々。中には、ステージでのPRはこの日が初めてという講師もみえ、この事業に対する積極的な姿勢が感じられました。展示ゾーンは、活動の経緯をまとめた写真や、プロフィールパネル、講師が今まで制作した作品などが展示され、来場者の目を楽しませていました。体験ゾーンでは、講座の内容を実際に体験することが出来、作品づくりや、講座内容の実演で、より身近に講師との対話も楽しめたようです。イベント終了後に、出展した講師と事務局の懇親会も行われました。この懇親会には中心市街地活性化アドバイザーや、松阪商工会議所職員も同席し、今回のイベントの感想、この事業の今後に期待する声など様々な意見が交わされました。こうした場を設けることで、この事業のコンセプトでもある「交流」は各講師の間でも広がりをみせたようです。

## 受講生随時募集中！

**【募集】** 11月以降に開講の講座は、まだまだ受講生募集中です。  
**【会場】** 松阪市駅前ベルタウン2階「ハートアップ跡」(松阪市日野町/駅から徒歩1分)  
**【講座内容】** 詳細はホームページでご確認ください。郵送で案内をご希望の方は、「ブンカの交流館・案内希望」と明記の上、「〒・住所・氏名・TEL・FAX」をFAXでご連絡ください。電話でも受け付けます。  
**【お問い合わせ先】** 主催：特定非営利活動法人Mブリッジ  
 TEL:0598-26-0108 FAX:0598-25-3803 ホームページ http://m-bridge.jp/business Eメール info@m-bridge.jp



【協力】松阪駅前通り商店街振興組合 【後援】松阪市、松阪商工会議所、松阪市社会福祉協議会、松阪市自治会連合会、(株)夕刊三重新聞社、中日新聞社、松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社 (後援依頼ご承諾)



## おすすめ書籍紹介

## 書籍の森

千あれば千の物語を語る  
**「パブリック・アクセス 市民がつくるメディア」**



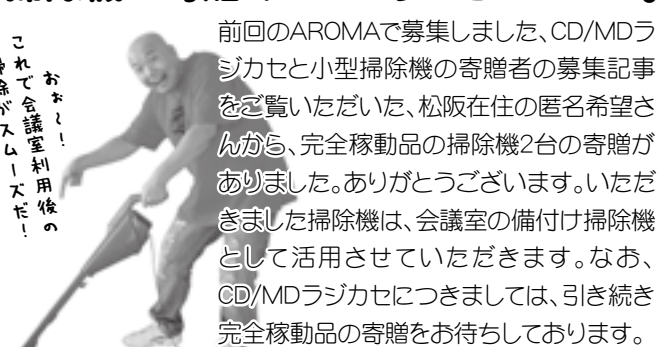
著者：津田正夫、平塚千尋

学生の頃、県外のあるテレビ局で、1分間PRコーナーなるものに出演した。催しの案内や、みんなに知らせたいことを伝える番組で、60秒を越えると容赦なくカットされる。誰でも参加することができる自由度が売りで、見るほうも、誰か知人が出演するのではないかという期待と、制限時間をどれ程有効に使えるかを見る面白さから、地元では意外な人気コーナーだった。思えば、あれも「パブリック・アクセス」のひとつの形だったのかもしれない。

本書は、筆者らが「アメリカでは、ごく普通の市民が自分たちで番組を作って、当たり前前にケーブルテレビにのせる、パブリック・アクセスという仕組みがある」という事実を知り、取材のために訪米するところから始まる。約10年前に発行された書籍だがメディアを支える多様な市民の姿は示唆に富む。

今、インターネットでの映像配信は個人でもさほど難しくない時代だが、テレビはまだ「見る」もので、「作る」対象ではない。ボランティアやNPOの活動は専門的で社会の役に立つことも多いが、もし、現場にいるあなたしか知らないような知恵や情報、事実やネタを生かして、公に表現できる場があるとしたら、何か伝えたいことはないだろうか？ この度、松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社のご理解と連携を得て、(松阪市)市民活動センターはパブリック・アクセスへの一歩となる番組を作ることができそう。一体どんな番組になるのか、こちらも楽しみに。

## 掃除機の寄贈ありがとうございました。



これで会議室利用後の掃除がスムーズです！

前回のAROMAで募集しました、CD/MDラジカセと小型掃除機の寄贈者の募集記事をご覧いただいた、松阪在住の匿名希望さんから、完全稼働品の掃除機2台の寄贈がありました。ありがとうございました。いただきました掃除機は、会議室の備付け掃除機として活用させていただきます。なお、CD/MDラジカセにつきましては、引き続き完全稼働品の寄贈をお待ちしております。



市民が創る市民活動の情報紙～アロマ  
**次回発行は12月中旬頃です。** 募集・イベント・事業案内など、共有したい情報をお持ちの方は、「アロマ掲載希望」の件名で「タイトル・趣旨・内容・日時・場所・問合せ先」などをご記入の上、松阪市市民活動センターまでE-mail がFAXにて送付してください。次回の原稿締切は2007年11月30日(金)です。 担当/澤・北西

## 松阪市市民活動センター

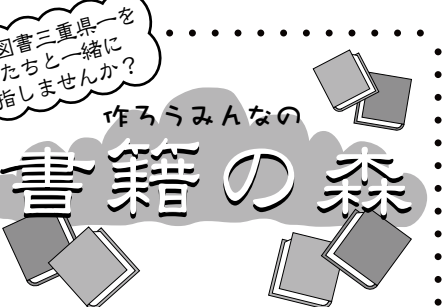
TEL 0598-25-3801(予約専用) 0598-26-0108 FAX 0598-25-3803 E-mail katsudou@ma.mctv.ne.jp

利用	会議室	大会議室……机 10 椅子 30 (600円)	機材等	印刷機(紙持込) / コピー機
		小会議室 1…机 4 椅子 12 (150円)		マイク/プロジェクター 他
		小会議室 2…机 6 椅子 18 (200円)	会議室・機材等はセンターに団体登録されることで利用可能です。	
		小会議室 3…机 4 椅子 12 (150円)	利用申込	申請書類は窓口でご記入いただくかお電話にて予約後、ご提出ください。
	小会議室 4…机 4 椅子 12 (150円)			
	外会議室……机 8 椅子 24 (400円)			

▼ 松阪市市民活動センターホームページ  
<http://www.city.matsusaka.mie.jp/kyodo/>  
 ▼ 市民活動情報サイト(登録団体の情報、会議室の空き情報)  
<http://genki365.net/gnkm/customer/matsusaka/>  
 ▼ 市民活動情報サイト(携帯版)  
<http://genki365.net/gnkm/i/>  
 ※ドメイン指定受信を設定されている方は「ma.genki365.net」を受信できるように指定してください。



古紙配合率100%再生紙と環境にやさしい植物性大豆インクを使用しています。



ご協力ありがとうございます。  
 引き続き書籍の寄贈を募集中です。

松阪市市民活動センターは新たに生まれる市民活動団体に活用していただくため書籍リサイクル運動「書籍の森」を実施中です。あなたの本棚に眠る使用済みのNPO書籍を次の世代に役立ててください。  
**【募集書籍】**NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

## 文字と文字の隙間を縫う……チラッと編集後記

秋の風が涼しく心地良い季節になりました。ある日の午後、空を見上げると、当たり前のことですが、夏の空をムクムクと持ち上げていた分厚い入道雲の姿はなく、秋の空にすれた筆で描かれたような絹雲が流れていました。「空って、人とは逆に寒くなるにつれて薄着になるんだなあ」なんて柄にもなく詩的になるのも秋だからですかね。[S]

## 本紙ご愛読のみなさまへ

## センターからのお知らせ

### ◎センター休館のお知らせ

下記の祭りは例年通り臨時休館日とさせていただきます。  
**11月3日(土)……『氏郷まつり』**  
 会議室利用などのご予約もできませんので、予めご了承ください。

市民が創る市民活動の情報紙～アロマ

# AROMA

A Resident Of Matsusaka Activity No.13

発行…松阪市市民活動センター  
 〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F  
 開館 月曜～土曜日/10:00～22:00

TEL **0598-25-3801** ▲予約専用  
**0598-26-0108**  
 FAX **0598-25-3803**  
 E-mail [katsudou@ma.mctv.ne.jp](mailto:katsudou@ma.mctv.ne.jp)

## ちょっと気になる団体



## ◎アジアを取り巻く問題を知って

「世界の抱える様々な問題に関心があつたんです。その中でも特にショックだったのは地雷問題でした」と話すのはフェアトレード松阪の代表、大北雄也さん(27)。アジア各国の紛争で使用された対人地雷は、「悪魔の兵器」とも呼ばれ、この非人道的兵器は戦争終結後の現在も、復興と平和を望む人々のすぐ近くにひっそりと潜み、近づく者にその牙をむく。こうした現状が日本では報道されにくいのも事実だ。活動を始める前、アジア各国が抱える問題を漠然と捉えていた大北さんは、ありのままの現状を把握するためにピースポート(※1)に乗船した。ピースポートでの3ヶ月間、訪問した国々で地雷や貧困などの問題を目の当たりにし、「自分も何か継続して国際協力出来なだろうか」と具体的に考えるようになったという。そこで着目したのが、同船内で講義を受けたフェアトレードだった。

(※1)ピースポートとは…民間レベルの国際交流を目指す日本のNGO。もしくは、この団体が行っている国際交流を目的とした長期船舶旅行の名称。「ガラバゴスの森再生プロジェクト」や「P-MAC(地雷廃絶キャンペーン)」など様々な国際協力プロジェクトを進めている。

## ◎身近な行動で国際協力

フェアトレードは、直訳すると「公正な貿易」。発展途上国で作られた製品や作物を適正な価格で継続的に取引することにより、生産者が生まれ育った土地で、持続的に生活を支える仕組みだ。フェアトレード松阪は平成18年4月に発足。大北さんを含む3名が主となり活動している。当初は独自店舗での商品販売も視野に入れていたが、資金面の問題もあり、活動そのものを継続出来るよう、既存店舗での委託販売で活動を開始。現在、松阪市鎌田町のヤマザキショップ、愛知県岡崎市のスーパーの一角に、大北さんの扱う商品が置かれている。「募金などの資金援助や、物資の援助も必要ですが、一時的なものでは意味がない。私がフェアトレードに興味を持ったのは、身近

で継続して行なえる仕組みだからです」と大北さんは語る。フェアトレードを理解し、その商品を購入する身近な「買い物」という行動が、継続的な国際協力につながるのだ。

## ◎外部サポートは学生ボランティア

フェアトレードを知ってもらうためには、店内用のPOPや値札なども欠かせないアイテムだ。このアイテムの制作を担っているのが松阪高校のボランティア部に所属する中山ひとみさんだ。以前、大北さんは知人のジャーナリストからイラクの写真を借り、アジアの現状を伝える写真展を開催。このポスターのボランティア募集の記事を見て大北さんに連絡した中山さんは当時中学生。それ以降、高校生になった現在も、外部からこの団体のサポートを続けていた。このようなきっかけから、心強いサポートメンバーを得られたのも、大北さんのアジアに対する思いが伝わったからだろう。更に中山さんは、今年の9月に行なわれた松阪高校の学園祭で、ボランティア部としてフェアトレード商品をバザーとして扱うなど、フェアトレード自体の周知にも一役買っている。学生時代に学校以外の社会に触れるということは、実りある貴重な経験になるのではないだろうか。



手描きの暖かさが伝わる中山さんのPOP。岡崎のスーパーの一角にもフェアトレード商品が並んでいる。

## ◎大きな夢が活動の原動力

現在、営業や商品の補充、入れ替えなど、活動の主になる部分は大北さんが行なっている。仕事との両立もあり、なかなか思うようにいかないこともあるが、大北さんには大きな夢がある。それは、一店舗に、多くの商品を集中して扱ってもらうのではなく、一店舗に一商品で良いので、フェアトレードを多くの人に理解してもらい「松阪といえばフェアトレード」と言われるように広めたいというもの。更に「活動のきっかけとなったのは地雷問題。最終的には地雷がなくなり、安心して暮らせるようになった土地で作られた作物なども、フェアトレード商品として扱いたいですね」と、意気込む。市民活動にはミッションがある。掲げる目標が大きければ、その分、活動資金や時間的負担も大きくなるだろう。しかし、地道な活動を継続することで、その意義が認められ、次のステップに進めた時の感動は何ものにも代えがたいものがある。大北さんの活動は始まったばかり。フェアトレードの街・松阪と呼ばれる日がくることを願いたい。

フェアトレードに関するお問合せはお気軽に  
**フェアトレード松阪 090-4260-0801(大北雄也)**



# 地域企業、学校との連携にも力を入れています!!

読者のみなさまへ 三重中京大学 地域社会研究所からのお知らせ 提供記事

## ■創設20周年記念シンポジウム開催■

### 地域と安全 ～国の役割・地域の役割～

三重中京大学地域社会研究所は、1987年7月に地域社会に関する様々な問題を、理論的、かつ実証的に研究して、地域社会の発展に寄与する目的で設立され、今年で20周年を迎えました。これを記念し、内外に名声の高い諸先生をパネラーに迎えて「創設20周年記念シンポジウム 地域と安全～国の役割・地域の役割～」を開催いたします。この機会に、改めて地域が抱える問題について考えを巡らせてみてはいかがでしょうか。

**【日 時】** 2007年11月10日(土) 午後1時～午後3時30分  
**【会 場】** 三重中京大学 7号館 731教室  
**【参加費】** 無 料  
**【主 催】** 三重中京大学 地域社会研究所  
**【後 援】** 三重県/三重県市長会/三重県町村会  
**【お問合せ】** 三重中京大学 地域社会研究所  
TEL：0598-29-1122 (代)  
http://www.mie-chukyo-u.ac.jp/chishaken/

- パネラー
- ・森本 敏… 拓殖大学教授(海外事情研究所長)
  - ・志方 俊之… 帝京大学教授
  - ・井上 源三… 内閣官房内閣審議官
  - ・平口愛一郎… 総務省消防庁国民保護室長
- コーディネーター
- ・浜谷 英博… 三重中京大学教授

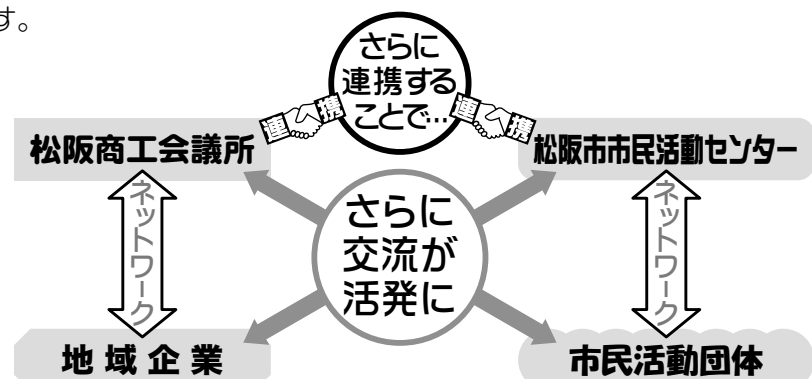
※駐車場には限りがございます。なるべく乗り合いか公共交通機関をご利用の上、ご来場ください。

### 【松阪商工会議所との連携】

豊かな地域社会づくりに向けて、市民活動団体と地元企業のさらなる連携が求められています。今後のよりよい繋がりを目指し、松阪商工会議所と当センターの相互協力によりアンケート調査を実施することになりました。これは三重県商工会議所連合会の活性化プロジェクトの一環として取り組むアンケートで、このモデル地域に松阪を選定していただくことができました。このアンケートは、

- ・「商工会議所」から「市民活動団体」へ……「当センター」を通じて実施
- ・「当センター」から「地域企業」へ……「商工会議所」を通じて実施

という、それぞれのネットワークを活かした相互連携の取り組みです。すでに商工会議所とは、まちづくり事業・祭りなど様々な連携や情報交換を行なっておりますが、今回の調査事業により さらに繋がりが深まりそうです。市民活動団体と地域企業の皆様、アンケートのご協力よろしくお願致します。



- 当センターは、「産・官・学・民」が連携しやすい場を作ることで…
- ▶市民活動団体の情報を広く伝えていきます。
  - ▶市民活動団体に発表の場を提供していきます。
  - ▶市民活動団体と交流する橋渡しをしていきます。

センターから広がる連携の輪だね!



### 【三重中京大学との連携】

9月8日に実施の「いっしょに遊ぼう子育てフェスタ in 松阪」に協力しました。短期大学部、松阪子どもNPOセンターなどによる同実行委員会が主催するこの事業は、子育て支援団体を中心とした市民活動の交流を深めるとともに、地域のサポートの輪を広げる目的で第1回目として開催されました。大学との連携や、学生のボランティア活動への支援にもさらに力を入れたい当センターとして、実行委員会に参画し、当日も運営に加わりました。残暑の厳しい中、4,000人もの来場者が訪れ、無事終了しました。企業・県・市・市民活動団体・高校など50を超えるブース出展やステージなどが実施され、まさしく「産・官・学・民」の連携事業となりました。当センターとしても、子育て世代のご家族や学生に向けて、市民活動のPRなどを実施しました。このPR活動をきっかけにセンターをご利用いただける方も増えそうです。早速、大学のボランティア部との連携事業について話が盛り上がり、検討していく予定です。大学と中心市街地との協働も進みつつあり、今後の、ジャンルや年齢を超えた活動にも期待が高まりそうです。



イベント風景。こうしたイベントが行なわれることで、子育てに対する意識も高まりそうですね。



ワシモ番組に出たいの～

### 【地域企業との連携】

来る11月3日「氏郷まつり」に、当センターが市民活動のPRに向けて出展します。このブースに昨年引き続きシャープ㈱三重県環境安全推進センターも出展していただけることとなりました。シャープ㈱は左奈川の清掃など様々な地域貢献活動に力をいれていらっしゃいます。まつり当日も、環境への取り組みをわかりやすく展示・紹介されます。ぜひお越しください。当センターでは、市民活動団体の情報だけに留まらず、企業の地域貢献活動も広く伝えていきたいと考えております。日頃からラウンジ内の「書籍の森」では、CSRレポートの設置や閲覧も実施しています。シャープ㈱三重工場が毎年発行している「環境・社会貢献活動情報誌」にも、地域連携の一例として、昨年の氏郷まつり出展が掲載され、当センターとの連携も記載いただきました。今後も、地域企業との情報交換や、活動のPRにも取り組んでいきたいと考えております。当センターでは「アピ×サポ計画」(アピール・サポート推進計画)で、企業と団体のマッチングにも協力しております。企業の皆様、市民活動についてはお気軽にお問合せください。



昨年の氏郷まつりのブース風景。CSR活動がわかりやすく解説されていました。

### 【地域メディアとの連携】

市民活動は着実に広がってきていますが、ご存知のない方にとっては、まだまだ「知らない世界」なのかもしれません。そこで! さらに多くの方々に市民活動の魅力を知ってもらうため、松阪ケーブルテレビ8チャンネルで市民活動PR番組「だから、市民活動!」が11月からスタートします。

- ◆放送日程: 第1回目の放送…11/12(月)～11/16(金)(5日間)  
※2回目以降も毎月第2週目の月曜～金曜を予定
- ◆放送時間: △△時20分～△△時25分の5分間番組(1日に約13回放送)
- ◆放送回数: 1日に約13回×5日間=約65回がリポート放送されます。

内容は、市民活動団体の紹介や、当センターの情報などが盛りだくさん。センターのキャラクター「マツハくん」,「ミライちゃん」も登場し、堅苦しくなく、楽しい番組を制作する予定です。制作・編集は、NPO法人Mブリッジが担当します。素人が創りますので、プロのように上手くはないかもしれませんが、その素人らしさが親しみやすさになれば…、と思っています。ぜひ、ご覧いただき感想などをお寄せください。番組は当センターのラウンジでも視聴できますよ。どうぞご期待ください。



【NPO法人の使命】▶ 今回のNPO法人ひとくちメモ、「ひとくちmemonpo!!(メモンポ)」は「使命(ミッション)」についてお話しします。「使命」は、「NPO法人の運営そのものだ」と言われるくらい、NPO法人にとって重要なことであり、明確でなければなりません。NPO法人の活動のひとつひとつは、その使命に基づいて行っているものであり、逆に使命なきNPO法人は存在しないとまで言われています。現在、活動されているNPO法人は、それぞれが社会貢献を目的に、地域や社会にある課題に取り組むために設立されている法人であることを、みなさんご理解いただきたいと思います。また機会があれば、それぞれの法人の使命を調べてみることも良いと思います。そして法人のみなさんも、我が法人の「使命」について再認識していただきたいです。

第8回

## NPO川柳

赤も広がる第8回。NPO川柳まだまだ募集中です! あなたの一言お待ちしています。

スポンサー 何処から探そう 地方都市

田舎NPO法人代表さん

都会には都会の田舎には田舎の良さがあります。わかってくれる方が現れることを祈ります。

若い頃 遊んだ土地に 恩返し

田舎希望さん

おろ! なんと素晴らしいです! しょう私も見習いたいと思います。

ちよっとした 会話で生まれる コラボかな

イベント太郎さん

人とのつながりは大切。何気ない会話にもじんじんとあるんですね。

見てわかる 名前をつけるたいかし…

団体のお付け替え

ネームラップって難しいですすねえごでセンターが聞われますよ

【募集内容】「NPO」、「ボランティア」、「市民活動」に関する川柳を自由に 【対象者】どなたでも応募できます。(NPO関係者以外の方も大歓迎) 【応募方法】件名に「NPO川柳」とご記入の上、左記をメールで送信ください。①句(未発表作品に限り、複数応募可) ②氏名(姓、筆名でも可) ③住所、電話番号 【宛先】katsudou@namctv.ne.jp 【締切】平成19年11月30日 必着 【発表】次号の「AROMA」と市民活動センターホームページにて。賞は何もございませんが、嬉しい川柳を川柳で楽しく伝えて交流しましょう!

※作品の著作権並びに作品に発生するすべての権利は松阪市市民活動センターに帰属するものといたします。 ※応募多数の場合はすべてに掲載できない場合があります。予めご了承ください。

センター長の独り言  
様々な連携体制を創ることのできる指定管理者であるべきと考え、努めております。 皆様 ご協力、ご助言 心からありがとうございます!

負けじと副センター長も独り言  
先日、個人として、センターに登録されている団体に入会しました。施設を管理する側ではなく、利用する側から見たモノがいづつかありました。ネット環境も整備しなければ…と思っています。